

ICT 有効活用のために～環境整備とスキル向上～

A 班第 2 グループ

課題

今回の研修会においてグループ討議を始めるにあたり、私たち A 班第 2 グループではまず各メンバーが所属する大学で導入されている ICT について情報交換を行った。その中で、ほとんどの大学で学生あるいは教職員向けのポータルサイトや掲示板、シラバス、e-learning 等のシステムが利用されていることが分かった。しかしそれと同時に、ポータルサイトをはじめとした ICT を「利用できる人・できない人」、「利用する人・しない人」に大きく分かれている現状を認識した。

以上のような経緯から A 班第 2 グループは「ICT 有効活用のために～環境整備とスキル向上～」というテーマを設定し、導入された ICT を活用してもらうにはどうすればよいのか、すなわち ICT を「利用できない人・しない人」がどうすれば「利用する人」になるのか解決策を討議することとした。

討議内容

前述の課題に基づき各大学で導入されている ICT が、なぜ利用対象者全員から活用されないのかという問題について意見を交わし、特に ICT 利用対象者における「利用できない人」「利用しない人」に着目し、話し合いを進めることとした。（ここで述べる「利用できない人」とは導入されている ICT の使い方を把握していない人や、ICT を利用するための機器の使い方を把握していない人を指す。また「利用しない人」については、対象となる ICT や機器の使い方を把握した上で導入された ICT を使わずにいる人のことを指す。）

提案内容

ICT を「利用できない人」を「利用できる人」に変えるには、講習会の開催や初年次のガイダンスで利用方法を周知することが必要であるという結論に至った。また「利用しない人」を「利用する人」に変えるには、ICT を利用することで得られる情報などを充実させることが有効であると考えた。今回は ICT を活用した学生・教職員間のコミュニケーション向上に焦点を当てて討議し、例えば学生の利用促進を図るためにはポータルサイトの内容を充実させること、学生と教員の間で気軽にコミュニケーションを取れるシステムを提案すること、学生と職員の間では就職に関する情報などの提供を増やすことなどが挙げられた。また教職員間では各種申請などの際、システムを通じ迅速かつ簡単に行えるようにすることで ICT の利用を促進できるのではないかという結論に至った。

これらは全て、これまで教員から職員、職員から学生へという一方通行になりがちであった情報提供のルートを双方向的なものに変えていくことによって、各大学で導入している ICT の有効活用につなげようという内容である。また現在導入されている ICT を有効活用することで利用者のスキル向上の基礎を育み、今後新たに ICT を導入する際の不安要素を減らす取り組みにもなると考えた。同時に ICT 導入による業務の効率化、学生の利便性向上等、さまざまな利点を再認識した。

「ICT 有効活用のために～環境整備とスキル向上～」というテーマに対し、以上のよう
に結論付け、将来性を確認することで討議を終了した。

以上